



住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2021年11月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

休診日 午後休診 18時最終受付

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

- 1. 内科・生活習慣病
- 2. 心臓病・糖尿病
- 3. 睡眠時無呼吸症
- 4. 土曜日診療
- 5. 発熱外来・PCR検査

インフルエンザ
ワクチン 予約受付
しています
お問い合わせは
こちらから
050-3181-2565



ホームページ
院長ブログ公開中

「今月の言葉」

The future starts today, not tomorrow.
未来は今日始まる。明日始まるのではない
ヨハネ・パウロ二世



ポーランド



11月に入り、寒くなってまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。前月号ではショパン国際ピアノコンクールについて取り上げました。すでにご存じのとおり、反田恭平さんが第2位、小林愛実さんが第4位、YouTuberとして人気の”かていん”こと角野隼人さんもセミファイナルまで進んだり日本はじめアジア勢の活躍もめざましく、世界中の音楽ファンが連日の演奏のネット配信に釘付けとなり、コンクールは大いに盛りまりました。

今回はそのコンクールの開催地、ポーランドについてお話ししたいと思います。私は2018年の夏にショパンを敬愛している娘と世界遺産を子供たちに見せたいという思いで初めて家族でポーランドを訪れました。その初めての旅ですっかりポーランドのファンになりました。ポーランドは正式名称はRzeczpospolita Polska、通称Polska。「Polskaポルスカ」は野原を意味する「ポーレ」が語源と言われており、まさに平原が続く農業国です。地理的には北はロシア、南はドイツに接しており、歴史をさかのぼると常にこの2大国に侵略され、驚くべきことに100年以上も地図上からポーランドが消滅していた時代がありました。ポーランドでは親日家が多いようですが、日本が日露戦争で大国ロシアを破ったこと、戦後のめざましい経済発展がその理由だそうです。近年の日本のアニメの影響で、大学の日本語学科も人気だそうです。

ポーランドの主な観光地をあげるとするとアウシュビッツ強制収容所、ショパンの生家、クラクフ、ワルシャワでしょうか。車窓から眺める田園風景は平和で家々は手入れされた花々が咲き乱れちよつとした田舎道にも心がほっとするような美しさがありました。

アウシュビッツを訪れた日は雲一つない晴天でしたが、Arbeit macht frei(働けば自由になる)という有名なアーケードを通り、収容所、ガス室、それにつづいて資料館に展示された膨大な遺品の数々に圧倒され、あらためてこの場で凄惨な悲劇が繰り広げられていたことを目の当たりにし、言葉を失うほどの衝撃でした。この収容所には死の恐怖に震えていた男の身代わりを申し出て、みずから餓死刑となったコルベ神父の最期の監獄牢もありました。コルベ神父は1930年代に来日し、数年間宣教活動された日本とゆかりの深いポーランド人で、私が高校時代に愛読していた遠藤周作さんの書籍でもよく知られています。また広島・長崎を訪問されたヨハネパウロ二世も同じくポーランド出身でした。ポーランドは敬虔なカトリックの国で、90%がカトリック教徒と言われています。聖母マリア信仰強く、クラクフには多くの教会でマリア様が祭られていたのが印象的でした。

ところでポーランドはお料理もとてもおいしいです。なかでも厳しい冬の寒さのためかスープの種類が豊富でどれも絶品です。有名な郷土料理の「ジュレック」はライ麦を発酵させた酸味があるクリーミーなスープ、別名？ポーランドの味噌汁と呼ばれているそうです。ソーセージやゆで卵、ジャガイモなどを入れていただきます。我が家でも妻が、ライ麦を1週間発酵させてジュレックづくりに挑戦しました。まさにこれは病みつきになる味で、冬場にいただくと最高です。スイーツも素朴ですがとても美味しくて、paczki(ポンチキ)が有名。小麦粉や卵、牛乳、イーストを混ぜた生地にはジャムなどを入れ、油で揚げたドーナツで、これを頬ばると幸せな気持ちになります。

さて、ショパンについてです。ショパンは21歳までポーランドで過ごし、その後フランスへ渡り亡くなるまでパリで過ごしました。ショパンは39歳で亡くなりましたが望郷の思いは終生やまず、死後遺言により心臓が(密かに)ポーランドに持ち帰られ、ワルシャワの聖十字架教会に埋葬されました。ショパンの作品の多くはフランスで作曲されているため、100年くらい前はフランスの作曲家というイメージもあったようです。1918年のポーランド独立後、ショパンの音楽をポーランドに取り戻して愛国心を鼓舞しようと1927年第一回目のショパン国際ピアノコンクールが開催されました。旅行中にはショパンの像で有名なワジェンキ公園や記念館、ワルシャワ郊外にあるショパンの生家などにも寄り、ショパンの手紙や手書きの楽譜などをみました。ショパンがいかにポーランドの人びとに愛され大切にされているかを行った先々で実感しました。

さて、ポーランド語には、niespodzianka(ニエスポジャンカ)という言葉があり、思いがけないこと、思いがけない贈り物などの意味があります。

ある日、当院に日本語を自在に操る外国の方がお越しになりました。お名前前の表記からひょっとしたら…と思い「ポーランドの方ですか？」と聞いてみたら、やっぱりポーランドの方でした！その方の奥様は日本人の音楽家で、実はジュレックの作り方やこの「ニエスポジャンカ」の言葉も奥様から教えていただきました。また、つい先日私の高校時代の同級生がポーランド人のご主人と結婚し、現在ポーランド在住ということを知ってびっくりしたり、ショパンの研究者の方が受診にみえたりと、まさに「ニエスポジャンカ」なことが続いています。

こんな話を書いていたら、またポーランドに行きたくなってきました。海外旅行を考えている皆様もポーランドも検討されてみてはいかがでしょうか？

文責 齋藤幹

